



発行所

日本聖公会 東北教区  
仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
「将来の栄光を見てみましょう」

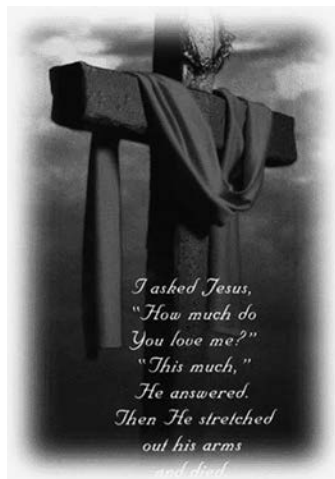
司祭 ドミニコ 李 賛熙

わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。(コリントの信徒への手紙二 3:18)

神様が喜ばれる人は「信仰の人」です。神様の言葉を疑わず信じて従う人を喜ばれます。神様は私たちに向けた特別な計画を持っておられます。神様の計画は、私たちの考えと期待を超越します。神様は、神様を信じて信頼する人を特別な人、偉大な人、夜空に燦然と新星のように輝く人になるように、計画しておられます。もし私たちが信仰を持たず、過去に何のビジョンも持たず、何も成し遂げられない生活を送った場合、今もそうでしょう。

しかし、信仰の人は違います。神様のための神聖な

ジョンを持って生活します。したがって、私たちは信仰によって、神様の力を頼りにして義の冠を示し、十字架の栄光を見て行動します。このために私たちがしなければなら



ないことは、神様の意志に完全に服従することです。神の意志に服従する者に、神様は聖霊の力を注いでくださいます。

皆さんはどのような人生を生きていますか。神様を信じず、信頼しない人生を過ごしたいですか。イエスの中で皆さんの人生を新たに計画してください。日常生活の中で特

別な生活に飛躍してください。イエスを私たちの救い主として受け入れれば、神様は私たちのすべての罪を許してください。そして、神の聖霊をプレゼントとしてください。

聖霊は、皆さんの人生を特別な人生、能力を行なう人生、偉大な未来が待っている希望の人生に変えてくれます。私たちは、み言葉と祈りを通して、より一層神様を

深く知るようになる  
とき、神様は私たちに人生を理解する能力をさらに育ててください。そして、私たちの人生の扉を開いてくれます。

今日、多くの人々は、イエスの前に来ることに消極的です。私たちは、神の仕事よりも世界の喜びと快適さがより好きです。そして主の前にくることを拒否します。

しかし、モーセはイエスが現れる1500年前に、イエスのために苦しむ道を選択しました。モーセは信仰によって犠牲制度を定めています。信仰で過ぎ越しと血をま

く儀式を定めました。これは、イエスがメシアとして来られ、十字架で贖いの儀式を捧げ、私たちを救ってください。ことを示す象徴の意味を持ちます。イエスがいらつしや1500年前にすでにモーセは信仰によってイエスを信じた。彼は選択しました。イエスのために苦しむことが王宮の栄華を味わうことよりよいと思われました。

私たちは、イエスの恵みと復活の望みと聖霊を通して、イエス様が私たちの中に永遠に一緒におられる恵みを楽しんでいます。したがって、私たちもモーセのように、イエスのために、世界の楽しさを放棄し、主と一緒に苦しむ道を選択する必要があります。これが行動する信仰です。皆さんの行動する信仰を示してください。イエスを受け入れて、聖霊を受け、その聖霊が常に私たちの中に豊かに住むことによって、特別な人生、輝かしい未来の栄光を成就して生きていかれることを願います。

(仙台聖フランシス教会牧師)

## ヴァイアル山荘を建て替えます

十和田湖畔施設活用グループ リーダー  
司祭 フランシス 長谷川 清純

これまで、多くの信徒、聖職そしてナザレ修女様方に愛されてきたヴァイアル山荘は、築103年で激しく老朽化し、ここ数年冬期間の圧雪による倒壊と倒壊物の湖面流出懸念が高まり、今冬の維持存続が危ぶまれる状況でした。何かの施しが急務であり、教区の財政逼迫の現状にあっても早急に対応する必要を認め、本施設の立地条件を与えられた恵みとして捉え、この逆境を宣教の業として当地に「開く」機会とし建替えを

決意し、昨年

11月23日盛岡で開催された東北教区第103(定期)教区会において、「ヴァイアル山荘を解体し改築する計画に賛同し推し進めることを承認する件」が可決されました。その後、早速大齋克己献金への申

請をしたところ本年度奉献先に決定され、十和田湖畔施設活用グループは教区宣教方針に則り、本施設が与えられている神の恵みを絶やすことなく、後世に継承する必要性を認め、静かな湖畔に立っている山荘が、多くの方がストレスを抱えている社会に開かれた、休息の場として活かされて、東北教区の休息施設として身体と心を優しく癒やす「場所」になることを願い、常置委員会及び東北教区財政主事、さらに当該施設の近隣教会において立案し設計等具



体化を進め、文化財保護法に従い関係省庁部署の指導により計画実施が整えられて、去る5月22日オンラインで開催された東北教区第104(臨時)教区会において建築を進めることに伴う「境内地使用変更を承認する件」が満場一致で可決されました。本堂に有り難うございました。

今回の改築のテーマは「やすみにきませんか」で、聖句は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとにきなさい。休ませてあげよう。(マタイ11:28)」です。「すべて疲れた人の休息の場として」の新しいヴァイアル山荘を夢見て建替えをします。

6月2日、吉田雅人主教司式により「ヴァイアル山荘祝福を解く祈り」を献げました。(写真)大館、青森、八戸、弘前、盛岡、仙台から参列した司祭たちと信徒計15名と、お隣りさんの招仙閣の工藤さん、建築関係者2名が、それぞれの思い出話や体験談、建替えへの思いなどを語り合い、数名は込み上げるものがあるほど感激しておりました。そ



の際、工藤さんから「ヴァイアル主教が生前に、建て替えたいと望んでいた」と発言があつて、主教は1974年1月3日ご逝去ですから、改築は50年程も前からの悲願であつたことが判明しました。

6月18日解体に着手し、7月には起工式をもって工事を開始、10月末の完成を目指しています。建築する建物は木造平屋建て、床面積74.52㎡、建築面積91.09㎡で、工事概算費用は約2000万円、資金計画は自己資金40万円、教区施設修繕積立金660万円、大齋克己献金奉献額1000万円、募金目標額300万円です。東北教区に限らず日本聖公会の宝物、財産、お恵みとしての山荘です。どうか、皆様のお力を結集してヴァイアル山荘の生まれ変わりを、誕生を後押ししていただきますようお願い申し上げます。既に大齋克己献金をお

掛け戴いておりますので心苦しいのではありませんが、今一度募金にもご協力、そしてお祈りくださいますよう衷心よりお願い申し上げます。

### 常置委員会報告

#### 第80回・第90回

##### ■主事会議報告

「2022年日本聖公会宣教協議会」開催に向けてのアンケートについて、教区としての対応を協議。(第9回)

##### ■協議事項

第104(臨時)教区会について  
新型コロナウイルス感染症拡大状況からWeb会議とすることが望ましいとの見解で一致。(第8回)

研修「法規改正(宣教協働区・伝道教区制)による東北教区の今とこれから」のプレゼンテーションについて意見交換。(第9回)

第105回(定期)教区会について

日程候補日、研修の実施有無、宣教130周年記念礼拝の実施の有無等について協議。11月23日を候補日軸にして継続協議。(第9回)

「原発のない世界を求める週間」プログラムへの参加者について  
教役者枠で渡部拓司祭を、信徒枠で八木陽子氏を参加者とするについて承認。(第9回)



**聖使幼稚園**  
園長 クララ 中田砂和子

聖使幼稚園は秋田県で一番初めに設立された幼稚園で、今年創立116年を迎えます。隣接する秋田聖救主教会の聖堂で涌井司祭さまに司式していただき、週一回お礼拝をしています。年長組はローソク当番があります。コッターを着て司祭さまと鐘を鳴らし、ローソクの点火・消火を行います。子どもたちの憧れのお当番です。献金係は各クラスから一人ずつ、教会の方が作ってくださった素敵な献金袋でお捧げします。

教会の皆さまはいろいろな場面で幼稚園をお支えくださっています。看板・行事の

飾りつけや花壇の世話をしてくださったり、クリスマス祝いで大役を引き受けてくださったり。雛祭りでは婦人会でお抹茶を点てていただいたことも。卒園児にはお祝いにオ菓子をごくたさっています。

新型コロナウイルス感染症防止のため休止していますが、教会・幼稚園合同の「ハッピーバザー」では、婦人会とお母さんたちがお互いのセンスに感心したり、レシピを交換したりなど楽しい交流が見られました。

教会の皆さまの温かいまなざしとお言葉は、保護者や教職員の大きな励みになっています。

地域の方も幼稚園を気にかけてくださっています。マスク不足の時期に手作りマスクを何十枚も寄付してくださった方や「現場で余ったから」と芝生の苗を運んで植えてくださった業者さんもありました。松ぼっくりやドングリを毎年持って来てくださる方、「ピアノ使いますか」と声をかけてくださる方、たくさんの方に応援していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



砂場遊び

今春、園庭の暗渠の取り換え工事を行いました。排水が悪く、雨で土が流出し園庭に深い溝が出来たり、碎石が出てきたりしたためです。園庭での泥んこ遊びはできなくなりましたが、川砂と山砂をブレンドした大きな砂場を作りました。子どもたちは毎日、山を作ったり樋で水を流したり、大喜びで遊んでいます。

秋田の四季は美しいです。司祭さまと教職員が聖書を読み朝のお祈りをする時、神さまへの感謝と仲間と働く喜びを感じます。

これからも教職員がそれぞれの賜物を生かし、心を合わせて子どもひとり一人を慈しみ、心身の健やかな成長を育むよう力を尽くしてまいります。

**礼拝堂探検隊**

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

**(第16回 聖卓・祭壇)**

「聖卓・祭壇」は御言葉と共に私達の信仰生活の中心です。

初代の教父達は「聖卓」と「祭壇」という言葉を区別なく用いていますから、祭壇＝主の食卓として理解していたのでしよう。

初代教会では木製の食卓を囲んで礼拝が行われていました。4世紀頃になると殉教者の墓の上で聖餐を行うようになったことから、石造の祭壇が始まったようです。その中に殉教者の遺物（聖遺物）を納める習慣も起こります。

中世に聖餐の犠牲的側面が強調されるようになると、食卓というより棺のような箱形のものとなっていきます。礼拝堂建築様式の変化や、神の超越性と絶対性が強調されるようになると、聖卓を囲むよりも、祭壇を堂内正面東奥に一段と高く据えて、神の尊い御座と御臨在を表わすようになりました。

しかし祭壇は私達のために犠牲となってくださった主キリストの御体をも表わしています。ですから祭壇の上面中央と四隅に、五つの十字架が刻まれているのは、主が十字架につけられた時の、御手・御足・御脇の傷を象徴しているのです。従って私達が聖堂に入りまするとき、また祭壇の前を通るとき、これに向かって敬意を表するのは、祭壇がこのような意味を持っているからです。

近年の礼拝改革によって、司祭と会衆が向かい合う対面聖餐式が主流になってきました。主の御体であり主の食卓である「祭壇・聖卓」を、皆で囲んで礼拝を献げます。これは単に初代教会の礼拝の回復というだけでなく、主イエスを私達の生活の中心に置くことを象徴しているのです。

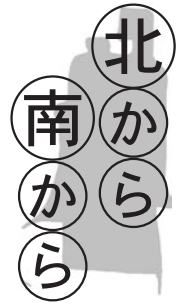
（教区主教）



（祭壇・盛岡聖公会）



（聖卓・仙台基督教会）



### 弘前昇天教会

弘前昇天教会は、今年聖堂聖別100年および宣教125年に当たり、5月16日吉田主教様をお迎えして記念礼拝を行いました。当教会は県重要文化財でもあるゴシック建築です。歴史を刻んだ貴重なオルガンも現役として頑張っています。コロナ禍の中、約30人の信徒で礼拝を捧げられたことは感謝です。これから弘前の宝でもあるこの聖堂を守っていく気持ちを新たにしたい一日でした。

### 盛岡聖公会

#### 厳かなる牧師任命式

5月9日聖餐式の前に、越山哲也司祭の牧師任命式が行われました。聖書、祈祷書、法憲法規、鍵を信徒4名が携え、深い祈りと共に吉田主教から司祭に渡されました。み言葉を宣べ、礼拝を司り、教会を牧し、全ての人に教会の扉を開く。信徒一同、気持ち

が一つになり喜びと感謝で満たされました。毎月の聖餐式は越山司祭2回、遠藤司祭(八戸より)1回、み言葉の礼拝1回となります。

### 秋田聖救主教会

昨年のこの時期は全国的な緊急事態宣言の中で、礼拝の公開中止期間にありました。この時期を辛抱すればと忍んでいましたが、ここ秋田では1年経過した現在、昨年より深刻な事態になっています。5月の連休前から礼拝公開を中止して事態を見守っていましたが、5月は一度も礼拝堂の扉を開けることができませんでした。この号が届くころには再開できていますようお祈りください。

### 新庄聖マルコ教会

3月末、1938年に教会付属園として出発した聖マルコ幼稚園を閉園いたしました。園児数の減少に加えて老朽化した園舎の改善も難しく、苦渋の決断でした。

学校法人化した際に寄附いただいた園舎をどうするのか、共に歩んできた教会にも影響

があることなので、今後どのような体制でいくのかまだ確定していないことがあります。いくつかの案を検討中です。良き導きを与えられますようお祈りください。

### 福島聖ステパノ教会

教会は5月15日から発令された県の「非常事態宣言」を受け、5月31日まで礼拝を休止しました。昨年に続く教会の門を閉ざす事態に苦しい思いをしています。しかしその一方で、当教会での結婚式を希望する人、新しく礼拝に参加したいという人が現れる等希望に満ちた出会いも起こっています。これらの出会いを大切にするためにも、教会として知恵を絞りながら歩んでいきたいと思えます。

### 仙台基督教教会

宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言の為、仙台基督教教会では公開での礼拝を休止し、毎主日YouTubeによりライブ配信されています。またFacebookでは当日の聖句や礼拝の様子を投稿しています。残念ながら聖堂に集ま

ることが出来ない反面、こうしたネット環境を活用した宣教に力をいれています。コロナは親しい人と会うことを困難にしていますが、主と向き合い祈る豊かな時間に変えられたらと願うばかりです。

### 東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

日本聖公会では「地球環境のために祈る日」(今年は6月6日)からの一週間を「原発のない世界を求める週間」と定めて、脱原発・反核、エネルギーシフト、ライフスタイル変更と地球環境保全をテーマに、オンラインフォーラム「原発はやめようよ」が開催されました。当プロジェクトは、この管区のプログラムに連携し協働する意向を管区の原発問題プロジェクトに伝えていました。昨年来の計画段階では一つのプログラムとして現地の今を報告する構想を描きましたが、新型コロナウィルス感染状況からそれは実現できませんでした。ただしメンバーの八木陽子さんが、各教区から限定された参加者2名の内の一人として全日程参加いたしました。次

号にはレポートが掲載されますので、是非お読みください。ちなみに「原発問題プロジェクト・ホームページ」ができ、日本聖公会ホームページにアップされました。  
(司祭 長谷川 清純)

◇7月11日(日)は「海の主日」です。すべての船員の安全と福祉のため、またそれを支える団体・人々のため、祈り、献金をお助けください。

### 7月逝去者記念聖餐式

7月6日(火) 午前10時  
於 主教座聖堂  
司式 吉田 雅人 主教  
説教 (未定)

- 司祭 松島 篤 1943年7月5日逝去
- 司祭 ペテロ 片岡 常吉 1973年7月11日逝去
- 司祭 ヨハネ 野村 義雄 1962年7月14日逝去
- 司祭 William F. Madeley 1939年7月22日逝去
- 司祭 ペテロ 佐藤 公平 1981年7月26日逝去
- 司祭 James Hubbard Lloyd 1951年7月27日逝去
- 執事 ペテロ 林 国男 2010年7月30日逝去